

# 刊行に寄せて

文教大学教育学部 森川 澄男

菱田準子さんの労作、『すぐ始められるピア・サポート指導案&シート集』が刊行の運びとなりました。心から喜びたいと思います。

日本の学校に「ピア・サポート」の活動が導入されたのは、ここ数年のことです。子どもたちの心や行動上の課題が一段と複雑になり、学校でもその対応策に苦慮しているという現状があります。そのようななか、子どもたちの持つ思いやりや支え合いの力を引き出し、援助のためのトレーニングを受けた子どもたちが、悩んだり困ったりしている仲間を支援するという「ピア・サポート」活動が、注目を集めるようになりました。

もともと外国で生まれ広がった活動ですが、日本の学校でも、子ども同士が助け合う活動は、以前から多種多様ありました。しかし、他者を支援することを目的に支援のスキルを学習し、それを学んだ子どもたちが積極的に他者の援助のために活動するという発想は、いままでほとんどなかったのが実情でした。

しかし、子どもたちの人間関係に弱さが目立ち、様々な課題の根に子どもたちの社会性の未熟さが指摘されるなか、何か問題が起こってからの対処療法的な対策だけでは解決につながらないことが認識されるようになりました。学校でも予防的・開発的な指導援助の重要性が叫ばれるようになっていきます。國分康孝先生が主唱される「育てるカウンセリング」の考えや、その具体的な活動の1つである構成的グループ・エンカウンターや、ソーシャル・スキル・トレーニングやアサーション訓練など、グループによる体験的な活動を伴いながら、子どもたちの人間関係能力を育て、生き生きとした学校生活をつくりだそうという活動が着実に広がっています。

「ピア・サポート」の活動も、そうした活動の応用として位置づけられ、学校のなかに取り入れられつつあります。

しかし、新しいことを学校のなかでつくりだすことは、そう簡単なことではありません。「ピア・サポートの主旨はわかった。しかし誰が、どのようにすすめたらよいか」「トレーニングはどのようにすすめるのか」「どの時間を使って活動するのか」等、様々な課題が生じてきます。特にピア・サポートの活動については始まったばかりで、参考になる文献や資料も限られ、多様な学校の実態に応ずるために、実践事例集やトレーニングマニュアル、指導案やワークシートなど、実際に使える資料がまだ少ないことが、この活動を広げていくために大きなネックになっています。

ピア・サポートの活動が広がるにつれて、今後たくさんの多種多様な実践に役立つ資料が提供されると思いますが、このたび菱田さんが、大阪の中学校の先生や子どもたちとの活動のなかから生まれた、ピア・サポーターを育てるために必要な指導案とワークシー

トを1冊にまとめられました。

私のはじめて菱田さんにお目にかかったのは、平成12年8月、私の関係した前橋市立鎌倉中学校の第7回ピア・サポート・ワークショップ（1泊2日 群馬県青少年会館で実施）でした。菱田さんが「ぜひ子どもたちの様子を見学したい」という強い希望で参加されたのがご縁で、交流が始まりました。

菱田さんは中学校の保健体育の先生ですが、兵庫教育大学大学院で、夏野良司教授のもと、「ピア・サポート・プログラムの開発」をテーマに研究に取り組まれていました。特に実践研究の中心となったプログラムを、実践校で6か月にわたり実施した折には、私もスーパーバイザーとして直接お手伝いさせていただきました。インターネットを使って兵庫と群馬とを結び、毎回指導案の検討とその結果についての協議を重ねました。生徒さんの思いもかけぬ素晴らしい動きを喜び合い、うまくいかなかったことを検討し合いました。精力的に研究に取り組み、温かく情熱的に生徒を思う菱田先生の姿勢に心打たれながら、お手伝いできたことを心から感謝しています。

この間に、菱田さんはカナダのトレーナー・コール博士と出会い、研究のまとめの段階ではダリル・ヤギ先生のスーパー・ビジョンもいただきました。修士論文を書き上げた段階では、カナダのビクトリアで開催された日本学校教育相談学会有志による第3回目のピア・サポート・ワークショップ（講師 トレーナー・コール博士、イギリスのヘレン・カウイ博士など）にも参加され、研鑽を積まれました。

菱田さんは現在、大阪市立阪南中学校で教鞭を執るかたわら、選択教科の時間を活用し、「学校でのピア・サポート」に取り組んでおられます。

この本は、このような経過のなかから生まれ、実践をくぐり抜け作成された学校現場ですぐに役立つ指導案とテキスト・ワークシートが納められています。まだまだ参考文献の少ないなか、これからのピア・サポート活動に役立つ資料として、大勢の方々に活用していただきたいと思います。

この12月、私どもピア・サポート活動を学校教育相談の立場から取り組んできた仲間が寄り合い、新たに「日本ピア・サポート研究会」を立ち上げることになりました。菱田さんもこの一員として準備に奔走していただきました。会の発足に合わせてこの本が刊行されることは、格別の意義があると考えております。

最後になりましたが、兵庫教育大学大学院 夏野良司教授にお礼を申し上げます。先生のご指導の一端に快く加えさせていただけたこと、また監修という大役を引き受けることになったのも、先生の寛大なお心の表れと心から感謝申し上げます。今後ともピア・サポート活動について、ご専門の立場から、ご指導たまわりますようお願い申し上げます。

また、出版事情のきびしい折、本書の刊行を引き受けていただいた「ほんの森出版」の佐藤敏社長、小林敏史氏に厚く感謝の意を表し、監修の言葉といたします。

平成14年11月10日